令和５年度

第５次総合計画　中期戦略事業プラン　事務事業評価シート

事業名	生涯学習推進事業			事業番号	11-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部	大山　剛	社会教育課	杉山麻里	

計　画　（Ｐｌａｎ）

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
		施策展開の方向	6	いつまでも学び生きがいがもてるまちをつくる
		施策	11	学習成果を生かせる生涯学習の推進
予算事業名	文化振興事業費/生涯学習推進事業費			
	公民館活動事業費			
事務区分〔選択〕	◉ 自治事務　○ 法定受託事務　(選択してください)→		法令上の位置づけ	義務づけ規定がある
事業開始年度	開始年度	平成25年度　～	終了年度	
関連法令等	教育基本法第3条、社会教育法第3条第3項			
国・県の計画等			計画期間	
関連個別計画	伊勢原市第2期教育振興基本計画、伊勢原市生涯学習推進指針		計画期間	平成30年度～令和4年度
実施の背景 （事業を取りまく環境・市民ニーズ）	市民の生涯学習活動に対する意識は高まり、公民館講座やサークル活動等を通して、その輪が広がっています。地域と連携して生涯学習環境の充実を図り、そこでの学びを地域へ還元できる仕組みを作ることで、生涯学習活動の更なる推進をめざしています。			
目　的 （何をどうしたいのか）	幼児から高齢者までの幅広い年代の市民に、生涯学習活動の機会を提供することで自発的な活動を促すとともに、生涯学習推進リーダーの養成を推進し、学習成果を生かせる仕組みづくりに取り組みます。			
主な対象 （誰・何を対象に）	学習の機会を求める市民、家庭教育支援を必要とする親など			
事業内容 （手段、手法など）	・生涯学習を推進するため、学習成果を生かせる仕組みづくりを行うとともに、推進する担い手を養成します。 ・大学や企業、市民団体等と連携し、各種講座の充実を図ります。			

事業行程	項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	いせはら市民大学講座	講座開催 リーダー養成	講座開催 リーダー養成
	市民活動団体や地域団体との連携	事業の立案・実施	事業の立案・実施

目　標	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	公民館利用者数	95,000人 (令和2年度)	254,000人	254,000人

事業実施（Do）

事　業　実　施　　（Ｄｏ）

事業の「取組方針」 （前年度事務事業評価）	参加者とともに、運営側も体調管理に気を付けながら、市民ニーズに合った魅力的な事業を企画していきます。 また、市民団体や地域団体と協力することや、市の施策と関連した事業を活用することで、社会の要請を踏まえた生涯学習を推進していきます。

実施方法〔選択・記入〕				
	○ すべて直接実施		◉ 左記以外	
	☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者	
	☑ 補助金		補助先	いせはら市民大学・楽しい講座実行委員会
	☑ その他		具体の内容	市民協働事業

実施結果	項目	年度	
		令和3年度	令和4年度
	いせはら市民大学講座	講座開催 リーダー養成	講座開催 リーダー養成
	市民活動団体や地域団体との連携	事業の立案・実施	事業の立案・実施

実施した取組の内容	
	○「第18期いせはら市民大学・楽しい講座」

目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度	
			令和3年度	令和4年度
	公民館利用者数	95,000人 （令和2年度）	156,654人	187,461人

コスト	年度		令和3年度　実績				令和4年度 実績			
	事業費合計(a)				363	千円			380	千円
	内訳	国県支出金 ①			0	千円			0	千円
		地方債　②			0	千円			0	千円
		その他特財　③			0	千円			0	千円
		一般財源 (a)-①-②-③			363	千円			380	千円
	国県支出金の内容									
	その他特財の内容	受益者負担	○ 有	◉ 無	前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	0.01	人	82	千円	0.05	人	429	千円
		その他の職員	0.1	人	304	千円	0.08	人	266	千円
		人件費合計(b)	0.11	人	386	千円	0.13	人	695	千円
	トータルコスト (a)+(b)				749	千円			1,075	千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	公民館講座等参加人数		単位	公民館講座等参加人数			単位
			対象数		3,217	人			2,790	人
		総事業費／対象数			233	円			385	円

評価　（Check）へ

評　価　（Ｃｈｅｃｋ）

進捗状況 〔選択・記入〕	○ 計画どおり（A） ◉ 概ね計画どおり（B） ○ 計画どおり進捗せず（C）	B	**左記判断理由**	・「いせはら市民大学」は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、状況に合わせて講座を実施しました。
実施水準 〔選択・記入〕	○ 他市より高い水準で実施（A） ◉ 他市と同水準で実施（B） ○ 他市より低い水準で実施（C） ○ 一律に比較できない事業	B	**他都市の事業内容等**	・コロナ禍以降、実施を見合わせていた講座や公民館まつり等の事業については、感染症対策をし、市民の安心・安全を図りながら行うことで、他市と同水準での実施ができました。
有効性 〔選択・記入〕	○ 高い（A） ◉ 普通（B） ○ 低い（C）	B	**左記判断理由**	・市民活動団体や地域団体と共に事業を実施することは、市民目線での考え方や企画・運営に反映できるので、市民ニーズに沿った生涯学習の推進に効果があります。
効率性 〔選択・記入〕	○ 効率的に実施されている（A） ◉ 改善の余地がある（B） ○ 抜本的な改善が必要である（C）	B	**左記判断理由**	・協働事業の実施に当たっては、団体と行政との役割分担をしっかり定め、効率良く実施できるよう、さらに精査する必要があります。

取組内容の改善　（Action）へ

取組内容の改善　（Ａｃｔｉｏｎ）

所管部長による総評	コロナ禍によって生涯学習活動も大きく変化し、新たな生活様式を前提とした活動のあり方が求められています。一方、生涯学習活動には、これまでの自己実現だけでなく、地域学校協働活動等、学校教育との連携や行政だけでは解決できない多様な課題解決に向けた行政との連携等、新たな視点での取組が求められています。今後も市民活動団体や地域団体と連携し新たな生涯学習活動のあり方を模索してください。